

## 研修報告書

研修名：平成29年度大学職員情報化研究講習会～基礎講習コース～

開催日：平成29年7月18日(火)～20日(木)

会場：浜名湖ロイヤルホテル

チーム名：M4Ki20I7（メンバーの頭文字+2017年度の組み合わせ）

※情報セキュリティの観点から英数字、大文字・小文字、文字変換を組み合わせて作成

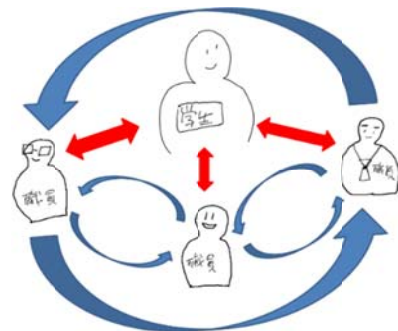
テーマ：「学生よ、大学職員を使い倒せ！～頼られる職員になるために～」

## 1. テーマ選定理由（背景および現状）

私たちのチームは、新入職員2名、2年目職員1名のほか、その他職員を含めた6名全員が勤続年数5年未満のメンバーで構成されている。2017年4月にSDが義務化されたことも念頭に置き、日々の業務はもちろん大学運営や今後の大学改革も意識しつつ、業務全般を俯瞰的に捉えられる職員を目指して、知識やスキルの習得、他の職員とのネットワークの構築に向けて奮闘しているところである。

一方で、文部科学省が掲げる職員像だけに縛られることなく、職歴の浅いメンバーだからこそ感じる、「どんな職員でありたいか」という純粋な思いもチーム内で共有することを重視した。メンバーの多くが教学部門に在籍していることもあり、多々ある大学の役割において、まずは学生が抱く“あんなこといいな。できたらいいな”という思いを、一つでも多く実現させてあげられる職員でありたいという思いから、今回のテーマを選定した。

では、現状はどうか。あるメンバーの経験談として、所属する部署や担当する業務の範囲内の情報しか持ち得ていないために、窓口に来た学生への対応が十分に行えず、結果的に学生をたらい回しにしてしまったことや、経験が浅く自分の知識に自信がないため、学生のニーズを満たす情報提供ができなかったことに不甲斐なさを感じているメンバーも存在した。そうした経験も踏まえると、教学部門（学生支援）においては、職員個人のスキルアップも重要である一方、それ以上に、学生と職員が点と点（個人）で繋がるのではなく、職員同士も連携を取り合い、点に対して面（チーム）で支援できる体制を構築していくことが重要であるとの認識に至った。（右図）



## 2. 問題点の深堀

知識も経験も未熟な私たちが、学生から使い倒してもらえる（信頼される）存在になるためには何が課題なのか。もちろん職員一人ひとりが知識や経験の蓄積、職員同士のネットワークの構築に向けた努力は前提になるが、組織としても職員の努力を促す仕組みづくりに取り組まなければならない。

そこで私たちが着眼した問題が、「職員や部署同士の情報共有不足」という点である。その問題点の具体例を、以下の2つの側面から大分し、次項で解決策を検討する。

### a. 他部署との情報共有・連携の不足

- 各部署の業務内容が分からず（見えず）、誰とどう連携すれば良いのか分からない。
- 他部署の年間業務スケジュールが分からず（見えず）、繁忙期や閑散期の情報も含めて、業務を依頼、

連携すべきタイミングが計りにくい。

- 縦割り文化に慣れてしまった職員には連携という意識が希薄であり、連携することに前向きでない職員も存在する。
- 他の職員の人物像（経歴・スキル・座右の銘・趣味等）が分からない。

#### b. 自部署での情報共有・連携の不足

- 自部署の中でも業務が縦割り化しており、他の職員の業務の把握が難しい。
- 引継ぎ書（業務マニュアル）の作成方法が統一されておらず、情報の更新もされていないため、業務の理解に手間を要する。
- 管理職会議の資料や議事録が、紙媒体であり回覧に時間がかかる。結果として担当業務に関係する情報が掲載されていた場合も即時の対応が難しい。
- 会議結果のみの回覧であり、管理職等から経緯や背景に関する説明がないため、学内動向や抑えておくべきポイント等の理解が深まらない。

### 3. 解決策の検討

前項で挙げた課題点を解決し、職員同士も連携を取り合い、学生に対して面で支援できる体制を構築していく最初の一步として、私たちが検討した解決策の一つが「教職員ポータル」の充実である。既に利用している大学も多く存在する一方、職員同士の交流に活用されている事例は少ない。私たちのチームでは、他部署の職員や業務についても理解を深められるコンテンツを掲載することで、現場でも職員同士のリアルな交流が深まるきっかけ作りに繋げたいとの共通認識を得た。具体的には、以下のようなコンテンツを提供することで、大学全体で情報を共有し、相互に利用できる体制を構築し職員同士の交流の活性化に繋げることを想定している。

- 部署ごとの事業計画書、年間スケジュール、業務担当者一覧
- 職員プロフィール（経歴・スキル・座右の銘・趣味等）
- 各職員が参加した研修報告書
- 規程関係
- 会議資料
- 文部科学省答申等

### 4. まとめ

以上、設定テーマを実現するための解決策の一つとして「教職員ポータルの充実」という点に焦点を絞りチーム内で議論を深めてきたが、注意すべきは、「教職員ポータルの充実」が直接的に「使い倒される職員」に直結するわけではないことである。しかし、教職員ポータルのようなツールによって、教職員同士がいつでも大学全体や他部署、他の職員の情報を入手できる環境を整えることで、今まで接点のなかった職員同士の交流なども期待でき、日頃の業務をより幅広い視点で取り組むきっかけになる可能性は十分に考えられる。

今後はそれぞれのメンバーが所属する大学の中で、ICT を利用した取り組みに限らず、自分たちの出来るところから、自身のスキルアップと職員同士の連携を深める活動を発信することで、「学生から使い倒してもらえる存在」に成長していきたい。

以上